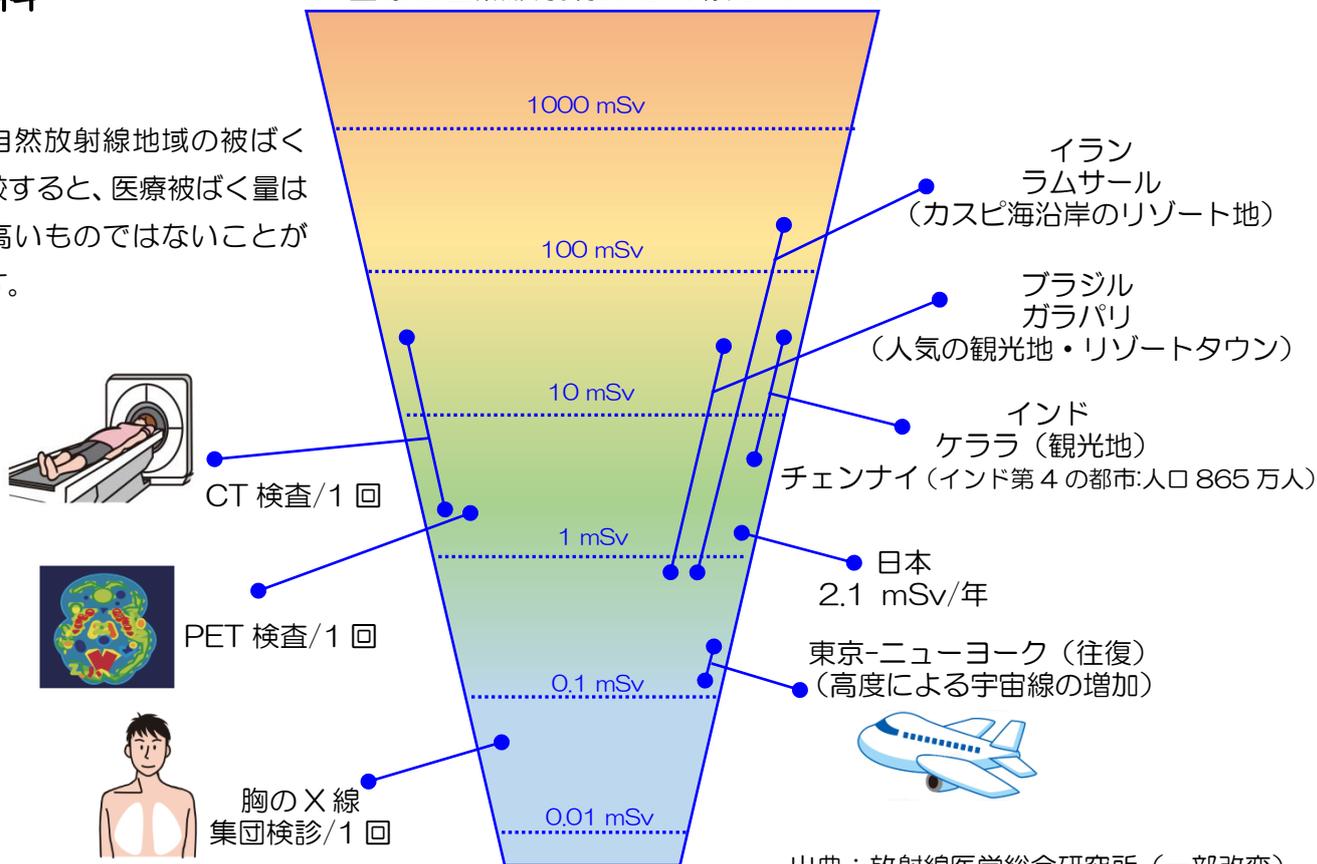


参考資料

医療と自然放射線からの被ばく

世界の高自然放射線地域の被ばく線量と比較すると、医療被ばく量はそれほど高いものではないことが分かります。



自然放射線からの被ばく

日常生活をする中で、私たちは知らず知らずのうちに放射線を受けています。宇宙から、大地から、食物や空気中のラドンなど、自然由来の放射性物質から受ける被ばくは、合計すると年間で世界平均では 2.4 ミリシーベルト、日本平均では 2.1 ミリシーベルトになります。

わたしたちが1年間に受ける自然放射線1人当たりの年間線量（日本平均）



確定的影響としきい値

検査の種類	当院		影響	しきい値
CT 撮影	82mGy (CT 線量指標)	3.0mSv (被ばく線量)	白血球 (リンパ球) 減少	250mSv
	18mGy (CT 線量指標)	13.5mSv (被ばく線量)	悪心・吐気・嘔吐	1000mSv
核医学検査	放射性医薬品ごとの値 (全国一律で 0.5-15mSv)		一時不妊 男性	100mSv
PET 検査	投与量 185MBq で被ばく線量は 3.5mSv		女性	650-1500mSv
			永久不妊 男性	3500-6000mSv
			女性	2500-6000mSv
			脱毛	3000mSv
			皮膚の紅斑	3000mSv
			白内障	2000mSv

(ICRP Publ. 28(1978), 41(1984), 60(1991), 62(1991) より)

放射線の影響

放射線の人への影響には、一定の被ばく量を超えると発生する影響（確定的影響といいます）と被ばく量が多くなればなるほど発生する確率が増える影響（確率的影響といいます）の2種類があります。前者には脱毛や皮膚の発赤などがあり、後者には発癌や遺伝的影響があります。ただ、人においては遺伝的影響があるとは証明されていません。